

会話楽しみ品定め

秋の花泉互市が開催

秋の花泉互市は11月1日から3日間、花泉駅前中央通り歩行者天国で開かれました。季節の花や植木、手作りのかごや刃物などの工芸品、地元の農産物など近隣地域の特産物の露店が通りの両側に並び、大勢のお客さんにぎわいました。かごやざる、包丁、かまなどは毎年互市で買い求めるというお客さんもおり、互市ならではの露店主との会話を楽しみながら品定めをしていました。

花泉互市は藩政時代、日常に必要な物を物々交換した市が由来で、毎年4月と11月の1日から3日間催されている県内唯一の互市です。



昔ながらの竹細工が並ぶ露店で目当ての品を求めらるお客さん

from HANAIZUMI
花泉



たくさんの観客が見守る中、熱い踊りが披露されました

鳴子と拍手が街に響く

Yosakoi フェスタ in 大東

いわいの里Yosakoi フェスタ in 大東(大東Yosakoi 恋・来い連菅原組主催)は10月29日、摺沢駅前広場などで行われ、県内外から集まった22団体・約500人の踊り手が躍動感あふれる演舞で集まった観客を魅了しました。

参加団体は摺沢駅前の「ステージ会場」と摺沢街道下通りの歩行者天国「パレード会場」を行き来して、民謡調、ロック調、サンバ調などさまざまなリズムに合わせて得意の踊りを披露。エネルギッシュな舞に魅了された約3500人の観客は踊り手に大きな拍手を送っていました。

このイベントは、市の「若者が主役の地域おこし事業」の補助を受けて行われたものです。

from DAITO
大東

シュートだってできるよ

キッズサッカー交流会

げいび幼稚園、長坂・松川保育園、田河津児童館の4施設合同による東山町内交流キッズサッカーは10月30日、田河津児童館を会場に行われました。

キッズサッカーは、岩手県サッカー協会の指導員を招いて施設ごとに行われているもので、4施設の年長組69人が参加。4人のコーチのもと、チームごとに分かれてボール遊びからシュート遊び、ゲームと、サッカーを楽しみました。

子どもたちは大きな歓声を上げながら、元気いっぱい園庭を走り回っていました。



サッカーの基本を楽しく学んだ子どもたち

from HIGASHIYAMA
東山



決勝再試合を制した秋田高専Aチームのロボット「ぶりこ」(左)

創意とアイデアで競い合う

高専ロボコン東北地区大会

全国高等専門学校ロボットコンテスト2006東北地区大会は10月29日、総合体育館で行われ、1800人の観客が声援を送る中、7校14チームが「ふるさと自慢特急便」の課題でゴールを目指し競い合いました。

競技は2チームの対戦方式。各チームお国自慢の「ふるさとオブジェ」を持ったロボットが、フィールド上の4つの課題を乗り越え、より早くオブジェをゴールに運んだチームの勝ち。地元一関高専は2チームが出場し、そのうち「牛若丸」号で前沢牛をふるさとオブジェにした一関高専Bチームがアイデア賞を受賞し、11月26日に東京の国技館で開かれる全国大会への出場を決めました。

from ICHINOSEKI
一関



大きなサケを捕まえた子ども

from MURONE
室根

童謡に平和への願いのせて

青い目の人形来日80周年記念コンサート

青い目の人形「ベティちゃん」の来日80周年を記念した童謡コンサート(実行委員会主催)は11月7日、千厩小体育館で開かれました。コンサートは、タンゴバンド「森川ともゆきとタンゴ・アンサンブル(盛岡市在住)」の演奏に合わせてオペラ歌手・小島りち子さん(宮城県南三陸町出身)が、童謡や四季の歌などを披露。児童や市民など約600人の聴衆は美しい音色を楽しむとともに、あらためて平和の尊さをかみしめていました。

「ベティちゃん」は、日米親善の証として昭和2年に米国から日本全国に贈られた1万2739体のうちの1体で、第2次大戦の戦火をくぐり抜け同小が保管しています。



児童ら聴衆に美しい歌声を披露する小島りち子さん

from SENMAYA
千厩

まちのトピックス

地域で開催されたイベントや身近なできごとを紹介します

in Ichinoseki

芸術と食欲の秋を満喫

むろね産業文化祭

むろね産業文化祭は11月11、12の両日、室根きらめきパークを会場に行われました。

会場には農産物品評会や芸術作品の展示、市内各地域の物産展、友好都市埼玉県吉川市、気仙沼市の物産展や食堂などのコーナーが設けられ、多くの人でにぎわっていました。サケのつかみ取りでは、子どもたちが特設の水槽で一生懸命に大きなサケを追いかけていました。

12日には、むろね郷土芸能フェスティバルも催され、室根地域の郷土芸能のほか、大東高校の鹿踊りや北上の鬼剣舞が産業文化祭に彩りを添えていました。



川崎産ツルクビを「かわさき鶴の芋(こ)」と命名しました

「幻の里芋」復活を目指して

特産品「ツルクビ」試食会

絶妙なぬめりとなめらかな食感が特徴の「ツルクビ」を新たな地域の特産品にしようと、川崎生活改善グループ連絡研究会は今年、会員の畑約50㍍で栽培し、2トンの収量を上げました。「ツルクビ」は門崎地区の砂鉄川周辺を中心に、戦前から栽培されている在来種のサトイモ。一般種に比べて水分が多く子芋の形が細長く折れやすい上、収量も少ないため、今では一部の農家だけが栽培している希少種です。

11月1日に行われた試食会では、いものこ汁のほかエゴマやあんこの和え物に調理され、もちのような粘りのある食感に好評を得ました。

from KAWASAKI
川崎